

第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県代表決定戦

2022年11月23日

会場: エントリオ(豊田合成記念体育館)

■男子決勝

愛知工業大学名電高等学校	3	25	第1セット	18	1	大同大学大同高等学校
		25	第2セット	18		
		22	第3セット	25		
		25	第4セット	20		
			第5セット			

原田 (2年)	笹本 (3年)	先 発 メ ン バ ー	渡邊 (3年)	平松 (3年)
田中 (2年)	藤井 (3年)		二五田 (1年)	座禮 (3年)
北田 (3年)	安田 (2年)		杉浦 (3年)	亀崎 (3年)
瀧澤 (3年)	鈴木 (3年)	リベロ	北村 (2年)	酒井 (2年)

<戦評>

今大会、いずれもここまで相手に1セットも奪われず、しかも20点以上の得点を許していない第1シードの愛知工業大学名電高等学校(以下名電)と第2シードの大同大学大同高等学校(以下大同)の決勝戦が、満員のエントリオで行われた。見応えのあるラリーが展開され、両チームの応援団だけでなく、一般の観客からも声援と拍手が幾度となく送られた。結果は、名電が3-1で勝利を収め、3年ぶりの全国大会出場権を獲得した。

第1セットは中盤まで競り合いとなったが、名電が16-15からの4連続得点で抜け出すと、終盤にも3連続得点を奪い、セットを先取した。特にブロックが機能し始めた中盤以後、相手の攻撃を簡単に決めさせず、ワンタッチを取って切り返す場面が多く見られた。攻撃面でもアタックミスはわずか1本と安定感を見せた。

第2セットも競り合いが続き、中盤まではほとんどのラリーがサイドアウトの応酬となった。ターニングポイントは15-14からの名電の3連続得点で、藤井のブロックポイントをきっかけに、笹本が連続でスパイクを決めて主導権を手中に収めた。終盤は名電・田中が躍動、21-18から相手コートにアタックを突き刺すと、サーブに回り2本連続エースを奪った。田中はこのセット8得点という大活躍であった。

第3セットは大同が一矢報いた。序盤に2本のブロックポイント、1本のサービスエースで主導権を握り返した。特に6-4からの5連続得点が大きかった。座禮がアタック・ブロックでネット際での強さを見せつけ、ラリー中の速攻では何度も相手ブロッカーを惑わせた。ただ、名電は最大9-17と8点差にリードを広げられたものの諦めず、何本も時間差攻撃を決め続けた。終わってみれば3点差と、終盤の粘りが次のセットへとつながった。

第4セットも中盤までは大同ペースで進んだが、名電は12-14からの3連続得点で逆転に成功した。その後、16-17から名電が5連続得点で一気に勝利の女神を引き寄せた。この連続得点のうち4本は大同のアタックミスで、名電のブロックのプレッシャーの高さが表に現れた形となった。最後は名電のエース笹本がレフトから強打を決めて勝負を決した。